

校長式辞

弥生の空、今年の冬は暖かく、梅の花も例年より早く咲き誇り、御書院の木々の緑には、すでに春の訪れも感じられます。また、諫早公園の桜は、つぼみが膨らみ始め、万物躍動の季節を迎えようとしています。このような今日のよき日に、保護者の皆様の御臨席のもと、長崎県立諫早高等学校 全日制課程 普通科第七十二回生 卒業証書授与式を挙行できますことは、大きな喜びであります。

三年間学び、思い出一杯の諫高を巣立っていく二百七十五名の皆さん、卒業おめでとうございます。たくましく成長し、夢と希望に満ちた未来に向かって、新たな一步を踏み出す皆さんに大きな拍手を送ります。保護者の皆様には、お子様のよりよき成長のため、苦楽を共にされた日々だったと思います。お子様をおあずかりしました三年間、私どもは心を込めて精一杯育ててきたつもりでございますが、これまでの成長の源は、何より御家庭の温かい愛情です。たくましく、そして凛々しいわが子を御覧になり、お喜び、いかばかりかと拝察いたします。心からお祝い申し上げます。

さて、皆さんは、この諫高で、学力や体力の向上を図るとともに、会話を重視しながら豊かな人間性を育み、何事にも意欲あふれる活動を行いました。学習面での日々の精進はもちろん、部活動においても目標達成に向け、互いに励ましあいながら努力を重ねてきました。特に文化祭を二日間の実施に変更し

たり、体育大会の仮装においては、各クラスの演技が次々とつながり一つの大きなストーリーとなるように学年全体で取り組んだり、女子のタイツの色の校則を変えたりと、諫高に新しい歴史を刻んでくれました。今、目の前にある事が、当たり前と思うのではなく、また、自分だけがラクしたり、楽しんだりするためではなく、みんなの幸せや充実感を向上させるための提案でした。このような発想こそ凄く大切なものであり、急速に変化している今の社会が待ち望んでいることです。この経験を是非、今後にも生かして欲しいと思います。そして、その思いは様々な場面で後輩へと受け継がれています。そういう皆さんと、この諫高で同じ時間を共有できたことを、私を含め、教職員一同、心から誇りに思い、また嬉しく思います。

さて、昨年この場で尋ねましたが、皆さん、卒業して心掛けたいことは何ですか。

私からは、皆さんに心掛けてほしいことを今から二つ話します。

まず一つ目は「いつまでも生徒であってほしい」ということです。「生徒」ということばには、「教えを受ける人」という意味があります。また、学ぶ立場を最も象徴する言葉が「生徒」だと思います。皆さんは、もう生徒と呼ばれる立場ではありませんが、生徒の気持ちで、生涯にわたって学ぶ姿勢を持ち続けてほしい、という願いから「いつまでも生徒」と表現しました。学問、仕事を行う力、人間性など何事においても、ある時点で完成するものではありません。高いレベルに達し

ても、やはりそこには改善・成長の余地がいくらでも残っており、さらに進歩するよう努力を続けなければなりません。謙虚に学ぼうとする努力を保ち続ける事で、自分の可能性の追求にピリオドを打つことなく、成長し続けることができます。どうか「いつまでも生徒」ということばを心に留め、常に学び続ける姿勢を心掛けてほしいと思います。

心掛けてほしいことの二つ目です。今まで、ことあるごとに述べてきました「梅は梅、桜は桜」です。生きるということは、自分が持っている個性を最大限に引きだし、お互い支え合いながら、人々や社会に貢献することだと思います。すなわち、「自分らしい美しい花を咲かせる」ことで、社会に貢献していくものだと私は考えています。「梅は、厳しい寒さを乗り越えて、はじめて清らかな香りを放つ」と言われるように、人も苦勞、逆境を乗り越えて成長し、人間としての輝きを放つのです。諫早高校で青学年として様々な事にチャレンジしてきた経験はまさしく、脳に汗をかき、体に汗をかき、そして、心に汗をかいた三年間、すなわち、努力という水を自分に「器」に溢れんばかりに入れ続けた三年間であり、世界平和の第一歩として異文化を理解する心、すなわち身近な他人の文化を理解し・受け止め・尊重する心を育てた三年間でした。卒業してからも、一人一人が持っている素晴らしい個性を磨き続け、その時々に出会った人々と尊重し合いながら、自分らしい花を咲かせ、人生を輝かせてほしいと願っています。

日本は、国際問題、環境、エネルギー、資源、医療、教育など、ありとあら

ゆる問題が山済みの、課題先進国と言われています。少子化が進み、超高齢社会となった日本の中でも、特に、長崎県は「人口流出」という大きな課題を抱えています。一方、世界的な問題としては地球環境の異常な変化や、新型コロナウイルスなどによる感染症の世界的流行など、国境を越えて課題解決を図る必要がある問題もあります。こうした諸課題に、どう向き合えばよいでしょうか。どのような関わりや貢献ができるでしょうか。しかし、「課題こそ資源でありチャンスである」とよく言われるように、課題や問題があるということは「伸びしろ」があるということなのです。今までも人間は常に目の前の課題を解決する事を繰り返し、世の中を発展させ続けてきました。皆さんが、世界にあふれる様々な課題や問題に対し、「いつまでも生徒」「梅は梅、桜は桜」新たな未来を切り拓いていくことを期待しています。

最後に、私の個人的なお願いになりますが、一旦、長崎の地を離れる生徒の皆さん、できれば、再び「ふるさと長崎」に帰ってくることを、または、最終的に長崎の地を離れる事になったとしても「ふるさと長崎」の発展のために、それぞれの立場で活躍することを切に願っています。皆さんに前途に幸多からんことを祈念して、式辞とします。

令和二年 三月 一日

長崎県立諫早高等学校 校長 原田 尚之